

コミュニティの 創出を目指して



倉吉市長も参加のIJUカフェ

移住者の力になれることはないか」という思いから、移住者を訪ねて話を聞くことからスタートした。

動いているうちに点が線になっていった。移住者の一人が民家を手作りでカフェにしたいと言え、ほかの移住者が手伝いに行くなど、移住者のネットワークが構築され、コミュニティが出来上がっていった。

信用度を高め、多くの人に周知してもらおうと2011年6月、任意団体だった「田舎暮らしの応援団」をNPO法人として登記し、福井さんは理事兼応

援団長となった。三朝町や倉吉市内の竹林整備をはじめ、移住者同士が気軽に語れる場として2011年5月から毎月、場所を変えて始めた「IJU（移住）カフェ」は、2014年1月までに36回開かれ、延べ1500人以上が参加している。

地域の伝統や風習を大切に考える福井さんは、平行して、空き家が増え中山間地域同様に高齢化が進んでいる「まちなか」にも目を向けるようになる。軽トラ市をとっかかりに、2012年7月から毎週日曜日、朝採れ野菜を積んでまちなかを巡る



野菜を積載したリアカーを引いてまちなかを歩き、住民とも会話が弾む

「田舎暮らしの応援団」は、鳥取に県外から移住してきた人を取材し、その様子をブログで紹介することから始まった。ブログの名が「田舎暮らしの応援団」だった。

ブログを始めたのは東京から2006年にUターンした福井恒美さん。倉吉市米田町。福井さんにとっても久しぶりの地元だが、県外出身の妻、千草さんにとっては倉吉は親類縁者、友人もいない全く知らない土地。仕事も自分のこれまでのキャリアを生かせるものもなく、戸惑いが多かった。

「自分たちと同じ悩みを抱えている人がいるのでは。相談相手がいなくて困っている

移住者や県出身者らが互いの活動を披露した「七人の侍」



「リアカー市」を始めた。リアカーを待つ地域住民らとの会話を楽しみ、「コミュニティを作っていききたい」と意気込む。

また、2013年5月、倉吉市鍛冶町2丁目の古民家を地域のコミュニティスペースとして活用。IJUカフェやワークショップなどの開催する場を設けた。福井さん自身はこの古民家を将来、ゲストハウスに計画している。

福井さんは「これまでの活動で人とのつながりを作ってきた。これで終わらせないためにも経済を起こしたい」と次のステージへと思いをはせている。

NPO法人 「田舎暮らしの応援団」 の事例

代表者のコメント

理事 福井恒美さん



三朝町の過疎化が進む柿谷という集落で竹林整備をしたことがある。タケノコなどの山菜料理を味わい、竹炭を作ったりして、つかの間「田舎暮らし」を子どもから大人まで楽しんだ。移住者をサポートしたいというスタンスはそのまま、地域の人と移住者の交流の場を作ったり、支援をしていきたい。私は絶えず双方に、刺激と気づき、感動を提案していきたい。

NPO法人 田舎暮らしの応援団

- 〈概要〉 ●所在地:倉吉市米田町883
●理事長:大江文雄
●設立:2011年6月23日
●合い言葉:「あつまる つながる ひろがる」
●活動内容:竹林保全整備事業・IJUカフェなど
TEL 0858-24-5856 MAIL info@npo-inaka.jp
ホームページ http://npo-inaka.jp

